

cue

03



特集

空間を包む壁

ミラノサローネ 2016 より

床の記憶
MESSAGE FROM FLOORS.

43

幼き頃、住んでいた家の台所の床に床下収納庫があったが、
子どもの力では、中々開けることができず
気にはしていたが確認せずにいた。

そんなある日友人達と収納庫の話題になり、
みんなで協力して開けることにした。

そこで、開けた中に入っていたのは、たくさんの花の絵だった。

親に聞いてみるとその絵は
父が花屋をやりたいという夢を絵に描いては
家族に見られるのが

恥ずかしくて隠していたもの でした。



空間を包む壁

ミラノサローネ2016より

「壁」は、「床」とともに、建築の基本的な要素であり、最も大きな面積を占める部分です。壁に何をどのように設えるかによって空間の雰囲気は大きく左右されます。今回の特集では、ミラノサローネ2016トレンド報告にからめて、空間における「壁」について考察していきたいと思ひます。



木の経年変化で表現する愛着 TOYOTA 自動車「SETUNA」

表紙の写真は、今年のミラノサローネでトヨタ自動車が発表したコンセプトカー「SETUNA」です。クルマを、「愛」が付く工業製品として愛着を持つて作り、手をかけて受け継いでいくことで、家族だけの新たな価値のある財（「時間財」）になっていくとの考えを具現化したとのこと。住友林業と共同開発した杉の外板（ボディ）をはじめ、樺・樺・栓といった国産材を適材適所で採用したこだわりの作り込みで、今回のサローネで最もインパクトのあった展示の一つでした。



Woody
Trend

アースカラーと相性のいい
ウォルナット

オークとウォルナットで全体の約20%を占める二大樹種トレンドが今年も継続しています。昨年はオークの比率が少し下がり、ウォルナットの存在感が増しましたが、今年はまた更にウォルナットが多くなった印象です。その背景としては、カラートレンドであるアースカラーとの相性が良いことが挙げられます。その流れから、オークに関しても、モカやブラウンなど濃色に仕上げたものが多く見られました。また、熱処理（スモーク）で濃色に着色されたユーカリも昨年に引き続き、「Molteni&C」・「Casa Milano」をはじめ多くのメーカーで確認できました。



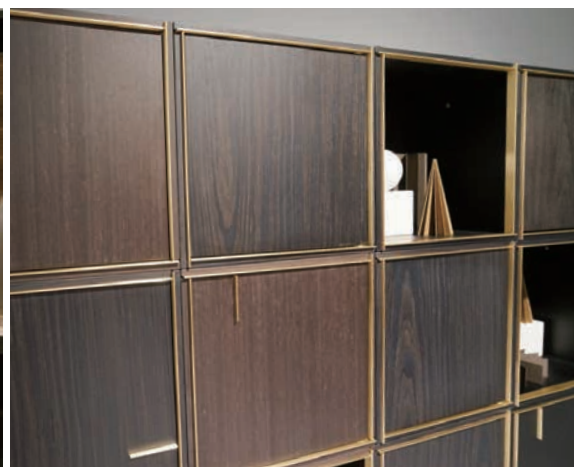
GIORGETTI



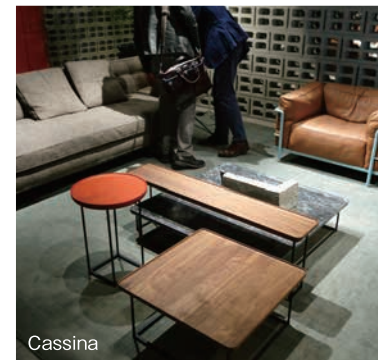
LEMA



Molteni&C



LAURAMERONI



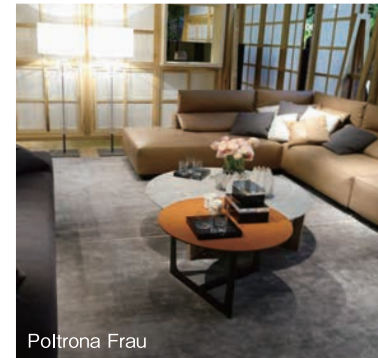
Cassina



Poliform



porada



Poltrona Frau



Casamilano



Minotti



FLEXFORM



LEMA



Flou

Color
Trend

グレー・ブラウン系の
アースカラーがベース

今年のインテリアカラーを一言で表現するとアースカラーです。「FLEXFORM」「Porada」「Poltrona Frau」「Poliform」などトレンドを牽引する代表的なブランドが一緒に、アースカラー（砂や石といった大地や木の幹の色）、すなわちグレー、ブラウン、ベージュ系をベースに、赤や青などをアクセントで加えるコーディネートを取り入れていました。このアースカラーのトレンドは、実はファッションで先行しているもので、ストレスフルな社会で、「癒やし」となる自然な色合いを求める現代人の感情から生まれたとも言われています。

また、差し色として、ゴールドや銅、シルバーといったメタリックな小物を取り入れることで、ゴージャスでラグジュアリーな要素を加える演出が、多くのブースで見られ、こちらも数年前からのトレンドとして継続しています。



「B&B Italia」のショールームの床。
木の床にトレンドであるアースカラーが象嵌されていた。



シチズンのインсталレーション。
約12万個の時計の基盤を使った作られた幻想的な空間。



「Molteni&C」のテーブル。大理石も濃色が昨今のトレンド。



ニュージーランドの巨木カウリ材（アガチス）のテーブルトップ、
もしくはオブジェ？ 迫力があります。「Riva1920」。



今年も大活躍であった「nendo」のインсталレーション
「50 MANGA CHAIRS」。



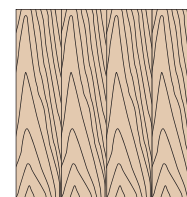
マルセル・ワンダース率いる「mooodi」の
折り鶴のようなかわいらしい照明。

木目をパターンとして使う

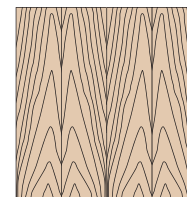
Woody
Trend

昨年からラステック過多の傾向が弱まり、キレイ目な木目使いに変わってきています。本物の素材感の表現としてブームとなったラステックは、もはやトレンドを通り越して定番スタイルとして確立されてきました。そして、今年顕著に見られたのが、木目をデザインパターン（模様）として使う意匠です。突き板で、ブックマッチやスリップマッチなどの伝統的な貼り方をしたり、あえて同じような木目をリズミカルに並べて魅せる意匠表現が多くブランドでみられました。木質仕上げにおける大きなトレンドの流れとしては、ランダムなラステックデザインから厳選された木目をきれいに配置するデザインに移り変わってきているようです。

【突き板の貼り方】



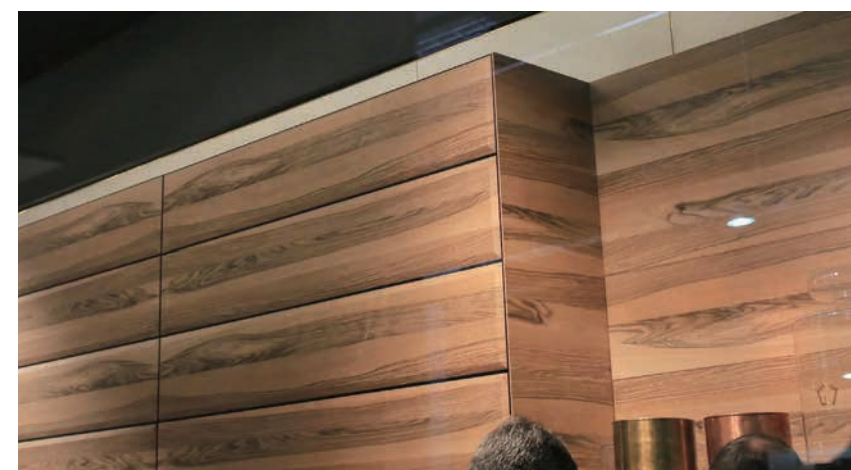
スリップマッチ
同じ木目を連続して貼る方法



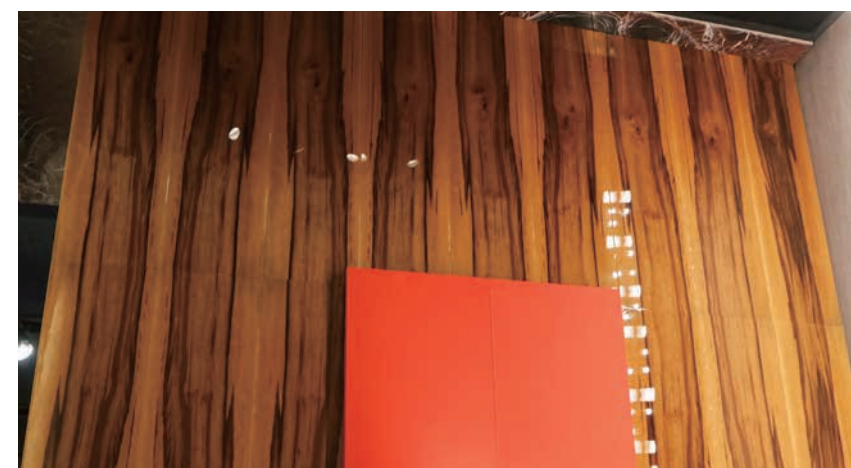
ブックマッチ
1枚ごとに反対にして左右対照に貼る方法



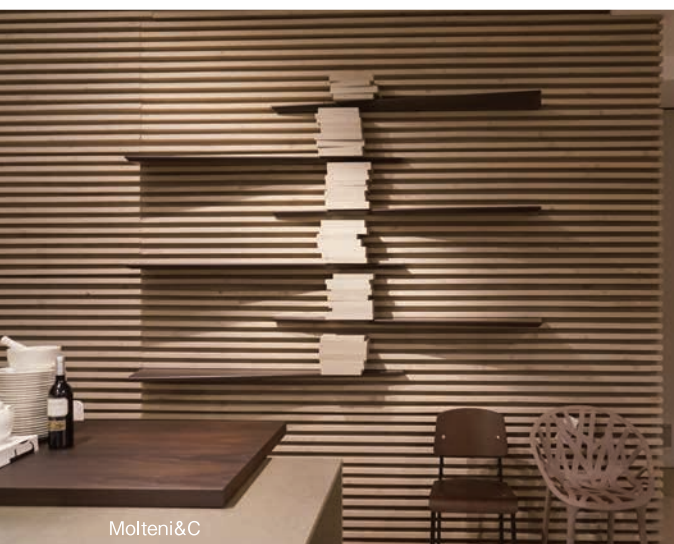
ミスマッチ
同じ樹種で違う木目を不規則に貼る方法



Varenna poliform
Poliformのキッチン部門であるVarenna poliformで見たキッチン収納



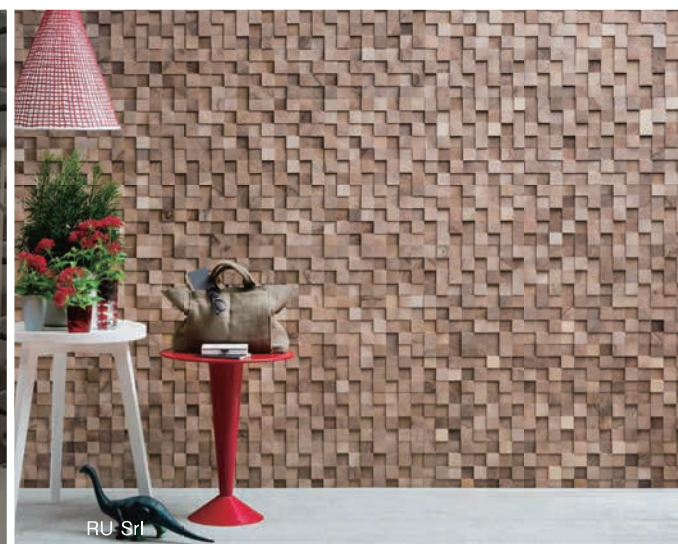
FENDI
アップルツリーのブックマッチ貼り



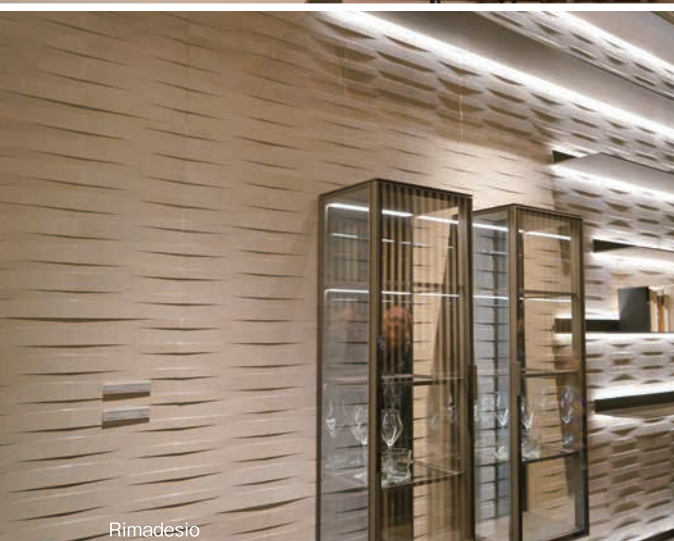
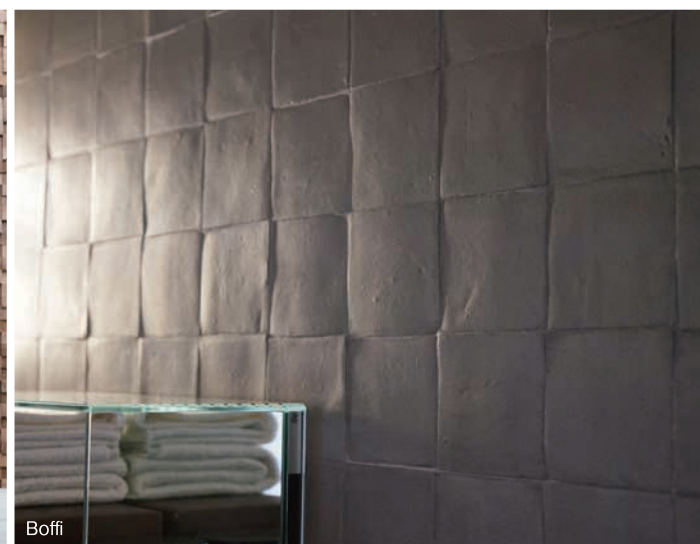
Molteni&C



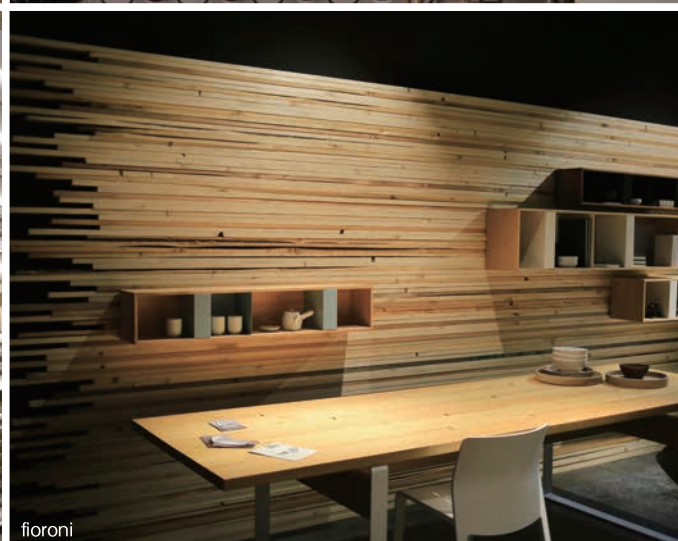
RU Srl



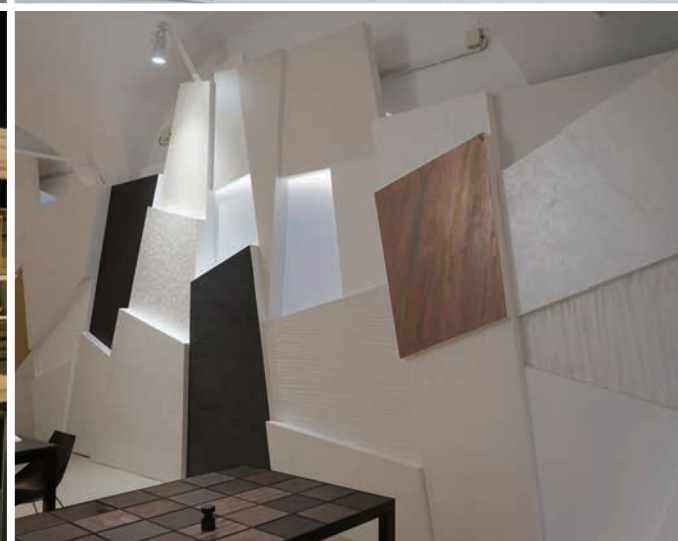
Boffi



Rimadesio



fioroni



GIORGETTI

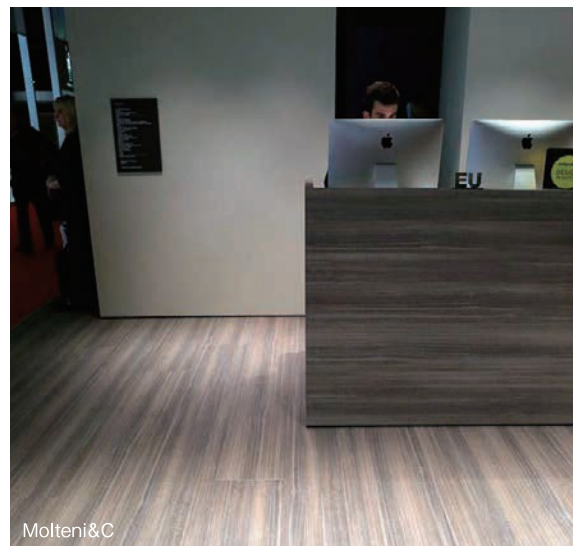


今回のミラノサローネ視察では、「壁」に注目して見えました。面積が大きいだけに空間の雰囲気が大きく左右する壁面は、床と同様インテリアのベースとなる部分です。一方でひとつの空間に1面で構成される床とは違い、壁は3面、4面と空間を構成する面が多いため、複数の素材やデザインを取り入れやすい部分でもあります。住宅であれば、シンプルでプレーンなものをベースとして部分的に装飾的なものを取り入れてアクセントにしたり、変化を付けたりするケースがよく見られます。

ミラノでは、様々なブースで様々な素材とデザインの壁を見ることができました。木質壁では、木目でデザインしたフラットなものから、凹凸加工や異なる樹種の端材を組み合わせた立体感のあるもの、タイルや樹脂など異素材のものも含めて、今後の当社の商品企画においても参考になるデザインがたくさんありました。例えば、「Boffi」や「PORCELANOSA（写真写真参照）」で見たタイルの凹凸感を木で再現してみても面白いかもしれません。また、棚板と組み合わせることで、デザイン的な拡張が生まれるとともに、収納機能が付与できるのも壁の面白いところです。

ミラノサローネを彩る様々な「壁」

Wall



Molteni&C



Casa milano



SOFAFORM

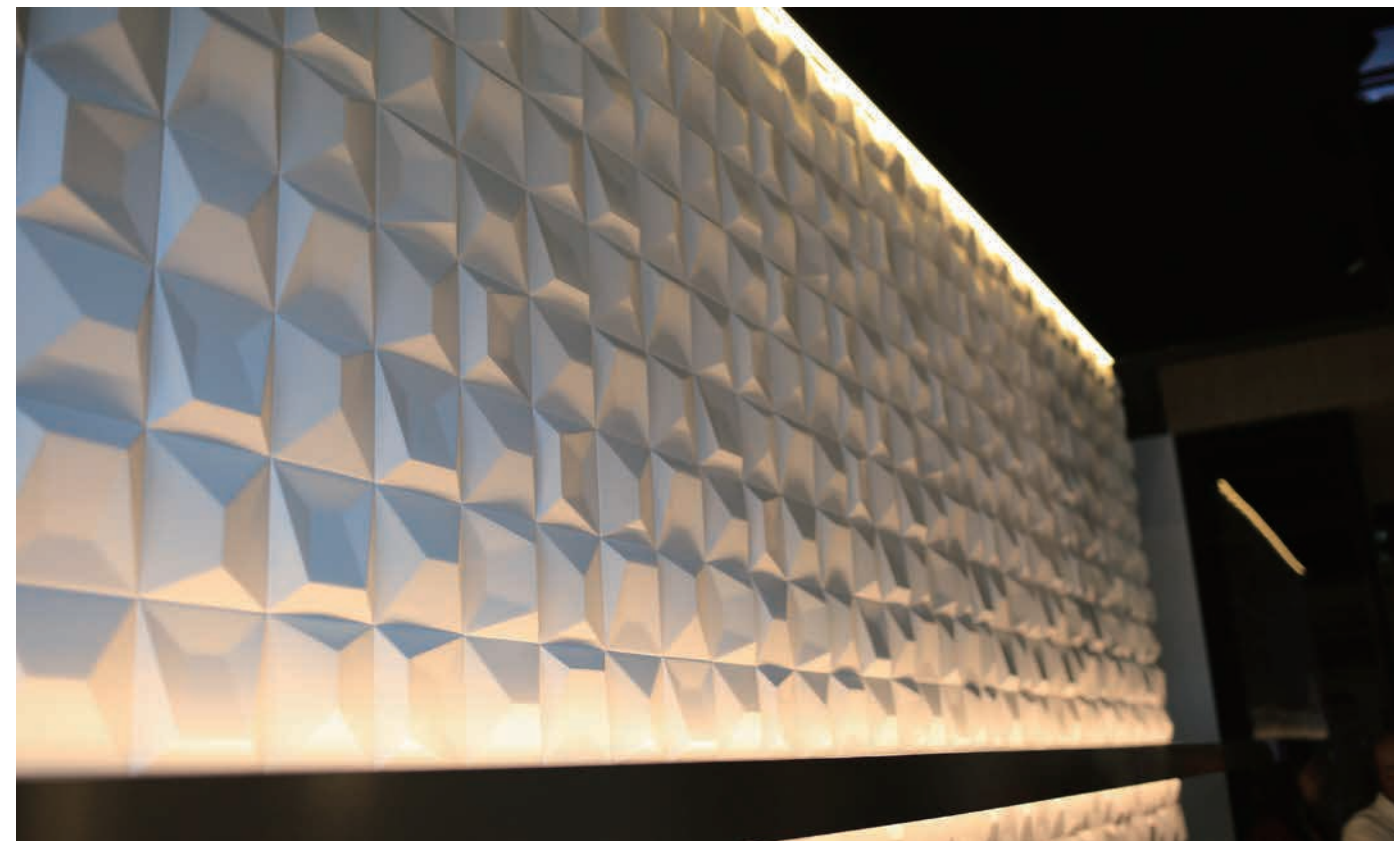


AR-TRE

Wall
×
Floor

空間に一体感をもたらす 床から立ち上がる壁

床と壁との取り合いについても着目してみました。あらためて多く見られたのが、床と同じ素材・デザインでそのまゝ壁を立ち上げるパターンです。特に、カウンターの面材を床から立ち上げていくケースが多く確認できました。非常にシンプルでありながらも、床と壁の連続性によって一体感のある空間を作り上げることができます。実は、当社の床材製品でも壁や天井に採用されるケースは案外少なくありません。壁材を床に使用するのは性能面で支障が出る可能性が高いのですが、床材を壁に使用するのは比較的簡単にできます。壁には壁材という既成概念をはずして、床材を素材として壁に使うという提案ができることにあらためて気づかされました。



(写真上)ヨーロッパを代表する住設機器メーカー「PORCELANOSA」のキッチンに使われていたタイルの壁。照明による凹凸の陰影が美しい。
(写真下)スウェーデンの家具メーカー「SWEDESE」。部分的につまんだように折り曲げられた板材を使ったアクセントウォール。

当社の銘木化粧合板の壁材
「ファンシーV」(1961年～)



竹小舞

柱に小穴をあけて間渡し竹を30cm間隔で組み、その間に小舞竹(割竹)を縦横3～4cmの格子状にシュロ縄で編んで作る塗り壁の下地



じゅらく塗り

京都西陣の聚楽第跡地付近から産出される聚楽土で仕上げた伝統的な土壁



日本の住宅における「壁」の歴史

ここで少し日本の住宅における壁の歴史について見てみたいと思います。

かつての日本家屋では、**じゅらく塗り**などの土壁、杉や桧の皮を細かく切ったものを「**膠(にかわ)**」で固めた繊維壁などが多く使われていました。いずれも、**竹小舞**と呼ばれる下地を組み、その上に左官で仕上げていくものです。

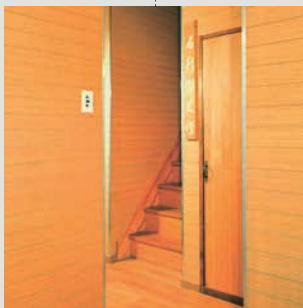
近代になり洋風建築が日本に入ってきてから、洋間には主に**木摺り**を下地とした**漆喰**の壁が使われるようになりました。戦後、プリント合板が生まれ、次いで、天然木の突板を貼った化粧合板が出てきます。当時の高級住宅の応接間には、ウォルナットやチークといった**銘木化粧合板**の壁材がよく使われていました。現在床材のイメージが強い当社も、当時は壁材を主力としており、ピーク時には月に30万㎡(2尺×8尺

サイズで20万枚)を販売していました。その頃、日本の住宅で一世を風靡し、羽目板風の壁材の一般名詞のようになった「**ピーリング**」は当社の登録商標でもあります。

その後、防火、保温、施工性に優れ、価格の安い石膏ボードが壁の下地として使われるようになると、仕上げは壁紙(クロス)が主流となっていき、現在に至ります。

一方、その当時の洋室の床はニードルパンチや樹脂タイルが多かったのですが、高級志向の流れで徐々にフローリングへ変わってきます。

現在、住宅の壁は白いビニルクロス仕上げが圧倒的に多いのですが、自然志向、健康志向を背景に珪藻土仕上げにしたり、同じクロスでもおしゃれな輸入クロスにしたり、また、石・タイル・木の壁をアクセント的に使うことで、壁をインテリアとして積極的に楽しもうという人が増えてきています。

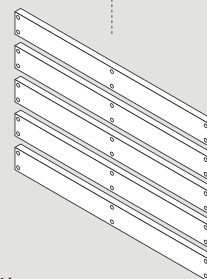


当社の銘木化粧合板の壁材
「ピーリング」(1958年～)



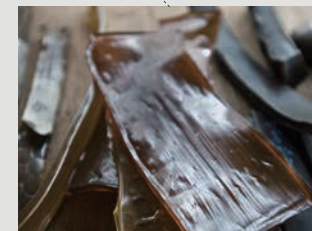
漆喰(しっくい)

消石灰に砂と糊と麻などの繊維質を加えて水で練り上げた塗り壁仕上げ



木摺り

杉などの小幅板を、1センチ程度の隙間で水平もしくは垂直に釘で打ち付けた塗り壁の下地



膠(にかわ)

獣類の骨・皮・腸などを水で煮た液を、乾かして固めたもの。ゼラチンが主成分。粘着剤などに使う

インテリアデザイナー 関 洋さんが語る「壁」 壁で空間の景色をつくる

「壁」について考えるにあたり、店舗、住宅などの空間デザインから、家具、生活用品、建材のプロダクトデザインを手掛けるインテリアデザイナー 関 洋さんにお話を伺いました。

インテリアを構成する3要素は床、壁、天井。

これで空間が成立します。空間に身を置くと、床は、重力により身体に触れている存在で、壁は、触れてあれこれ思うことは、あまりない気がしますが、普段の生活の中で、必ずと言ってもしない限り、目にしている存在で、天井は、手が届きそうで届かない、何か曖昧な存在に感じます。そんな思考から、僕は、床は大地、壁は景色、天井は空というような捉え方をしています。

壁は、日常の背景というか、ふと目を上げた時に浮かぶ風景というか・・・よくあるじゃないですか、壁が寂しいから絵やオブジェを飾りたいとか。それって壁にひとつの景色を作っているってことですよ。建築的な目線で捉えると、もつと壁の役割りや可能性は広がりますよ。例えば、壁に窓を設けると、光や風を取り入れると同時に、そこに窓＋景色という「壁」を表現していることもある訳です。出入口口も同じように言えるかと。部屋と部屋を繋ぎ閉じながら、壁が視線の先の景色を作っています。

また壁を、造作家具と置き家具などと馴染ませたり、引き立てたり、概念的な要素を込めた、アートのような存在に高めていくこともできます。例えば、リビングとダイニングに見る、ソファ、テレビ台、テーブル、椅子などを、床と壁と天井の形態と素材と調和させて「場」の個性を強調したり、壁のデザインに意味を持つと、単なる飾り付けではない、その場を象徴するアートと壁を一体にした、アートウォールとし

て表現することができます。

壁は、景色が移ろうように、空間に「変化」を与える事もできます。引戸のように可動させることで生まれる変化もひとつですが、格子やガラスのような、視界を操作できる要素を合わせると、その時々表情の変化自体が、その場らしさをつくりだし、より感覚や感情に作用するものになる訳です。壁を空間の「質」を彩る「景色」と例えると、無限大の表現（イメージ）が広がりますね！

このアトリエの壁は、左官と桐で覆われています。僕たちがデザインをする時に最も大事にしていることは「らしさからならではに」です。家とは、人が主役であり、その「心持ち」を大切にしたいという考えから、僕たちはこの場でどんな生活がしたいのか？と同時に、どんな「気持ち」で居たいのか？ということ深く考えました。

そして「心静かに想いを馳せる」に辿り着いて、生まれ育った伊豆の海と山や林の「記憶の景色」に辿り着きました。視覚的なイメージだけでなく、心地よい住環境を得るために、砂浜を表現した左官は、調湿作用のある石灰をベースに砂や鉱物を配合し、山や林を表現した木は、空気清浄と抗菌作用に優れた桐の突き板を用い、自然感を表現するために、自分で材料を選び、木目の並びを決めました。僕たちらしい原風景を、僕たちならではの「機能美の景色」にデザインしたのが、この「木の壁」ということですね。



インテリアデザイナー

関 洋

1966年静岡県生まれ。インテリアデザイナー真保毅氏に師事した後、セキデザインスタジオ設立。暮らしに関わる店舗、住宅などの空間デザインから、家具、生活用品、建材のプロダクトデザインを手掛ける。ライフスタイルから生まれた、オリジナルブランド「素のもの」の企画販売も行っている。賞歴 | JCDデザインアワード、あたたか住空間デザインコンペティション、住まいの環境デザインアワードなどを受賞

photo: SATOSHI ASAKAWA

知っていると役立つ
床のおはなし

床

知っトコ豆知識

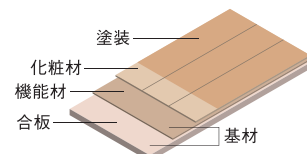
フローリングの傷、 どんな種類があるの？



また無垢や挽き板化粧のフローリングの場合、無垢や挽き板に使われている樹種の硬さや塗装の種類によって傷のつき方が多様ですが、傷もまた味のひとつとして捉えられることも多いようです。

素材の風合いと機能性、製品によりそれぞれ特徴がありますので、「適床適所」で使い分けて頂き、ライフスタイルに合わせた最適なフローリングを選んで下さいね。

(文中)



フローリングの「傷」には、大きく「すり傷」と「凹み傷」の二つがあります。

掃除機や砂などを引きずって生じる白化傷やスリッパ等でおかきのかげらなどを引きずった時につく塗膜の凹み等は「すり傷(塗装面につく傷)」に分類されます。フローリングの表面塗装を硬くすることですり傷をつきにくくさせることはできますが、塗装を硬くしすぎると木が本来もつ風合いが損なわれることもあります。

一方、「凹み傷」はモノを落とした時やキャスター付家具を移動した時にできる基材部分にまで及ぶ傷を指し、基材の硬さによって傷のつき方が変わります。

複合フローリングの場合、昔は合板の上に直接、あるいは紙を挟んだ上に化粧材を貼る構成になっていました。現在では合板と化粧材の間に合板より硬い「機能材」を挟むことで、従来より凹み傷を付きにくくした製品が主流となっています。

空間を包む壁

関さんは、壁を空間の「質」を彩る「景色」と例えられました。景色は眺めて楽しむものです。昔の人が、風景の描かれた障壁面を楽しんだように、壁面を意識して創っていくことで、その空間での暮らしをより心地よく、より楽しくすることができるようではないでしょうか。

特に天然素材で人との親和性が高い「木」を壁に使うことは、空間の心地よさに直結します。樹種によって異なる様々な色目と木目の面白さ、調湿効果や香りの効果などといった特徴、木の持つ癒し効果をインテリアの中で床材以上に活かせるのが壁材です。今回のミラノサローネでもたくさんさんの木の壁を見ることができましたが、どちらかというと一面のみでの使用やアクセント的な使い方が多かったように思います。そう考えると異素材とのコーディネートも非常に大きなテーマとなります。

素材を活かし、インテリアにおける景色として、住む人を心地よく包み込む「壁」とはどのようなものなのか、建材メーカーとして、これからも追及し続けていきたいと思っています。

HACOA

フリーボードから生まれた テーブルと椅子

『Hacoa』とは
空間という「箱」、空間の中にある「箱」、
その「Haco」に「+α」を創造する意思を
伝える意義を持っているということ。
www.hacoa.com



木の小物をデザインから製造、販売まで行なっている『Hacoa』。当社もノベルティ製作などでお世話になっています。今回は、東京オフィス内のテーブル、ベンチや椅子に当社の「And More」フリーボードを使っていたいただきました。デザインを手掛けた、代表取締役 市橋 人士さんにお話を伺いました。

木製品に特化している御社のこだわりを教えてください。

もともとは重箱や御膳などを作っていた木地職人で、会長は伝統工芸士。私自身も職人を始めて22年が経ちます。木が好きという想い、若い人に伝統を継承し、伝統と今のライフスタイルを融合させたものづくりができないかと2001年にHacoaブランドを掲げました。木をベースにしているのは今も変わらず、「木をどれだけ美しく見せられるか」「木の

良さを伝えられるか」をいつも突き詰めてものづくりをしています。木の小物で、シャープでエッジの効いたデザインを取り入れた商品が広がっていったと自負しています。

今回、御社の東京オフィス内のテーブルや椅子に弊社「And More」シリーズのフリーボードを使用頂きました。

今まで小さな事務所だったので、今度では会議のしやすい事務所にしよう、無機質なオフィスビルの中でも、木の机や椅子を置くことで、一息付ける空間にしようと思っていました。

集成材を加工するきっかけは御社との出会いです。集成材を使う概念がなかったのですが、無垢では作れる大きさにも限界があります。フリーボードを有効活用することで、幅が広がります。集成材には木取りが難しい面もありますが、意外に表情が豊かなので、ものづくりをしても面白いなという印象を受けました。商品の時計を作った時に、安さを求めて別の集成材を使ったら、現場からフィンガー部分が欠ける等の不良が多くなると言った声があり、御社のものに戻しました。

最後に新しいお店について教えてください。

今年3月には銀座、6月には名古屋に新しくオープンしました。丸の内店から石×木×鉄をテーマにした店舗づくりになっていますが、展示する商品はそれぞれのお店のスタッフに任せていますので異なっています。木を好きな人間が考えて、木が好きな人間が作って、木が好きな人たちが商品を説明してお客さまにお届けしています。ぜひ木の可能性をお店で感じ取ってもらいたいですね。

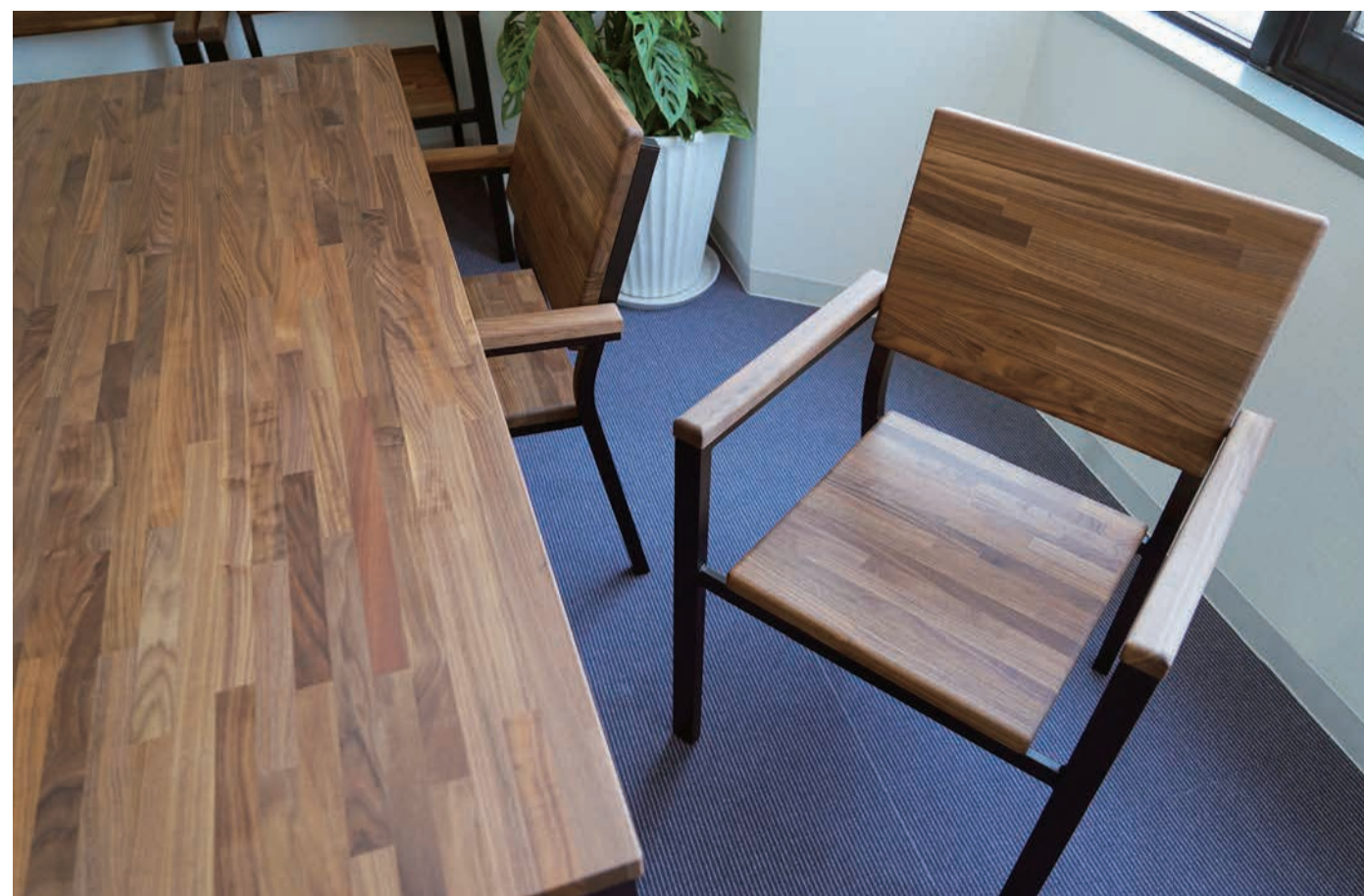
(文 大西)



Hacoa直営店限定で販売されている「HANGER SHELF」にもフリーボードを採用。



集成のピッチを意識した木取りやデザイン。木を取り入れることで一味違うオフィスに。



「AndMore」シリーズのフリーボードのブラックウォルナットを採用。「仕上げにはオイル塗装をしているため、木目の表情が豊かに見える。」と市橋社長。



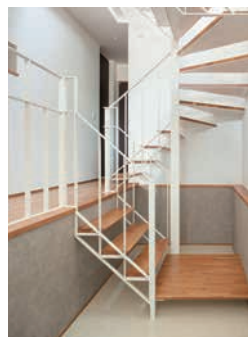
Hacoa ダイレクトストア KITTE丸の内店。



Hacoa の商品「PIPE STOOL」にもフリーボードを採用。



オークではベンチタイプもデザイン。店長の集まる会議でも活躍中。



美しさと遊び心が融け合う邸宅

「名古屋の邸宅」と銘を冠するこの物件は、土地が持つ個性を活かし、高級住宅にふさわしい建材を集め、敷地を最大限に活かした間取りを持つ、贅を尽くした住まい。

建築素材は、その時その時に入手できる最高のものを集められるよう心がけ、昔から建材として使用されている天然素材と、現代の最新技術でうまれた新建材をバランスよく使い分けて、未来に残せる美しい住宅をつくるというこだわりよう。採用されている素材も様々で、タイルやガラス、天然石、天然木など自然の恵みをダイレクトに感じられる空間です。

床材は、新商品 DESIGN PREMIUM / MOSAIC ブラックチェリー。MOSAIC という名の通り色幅が大きく、自然に入る白太が躍動感を産み空間のデザイン性を高めてくれるのではとの期待からご採用。高い質感と賑やかで明るい印象から、エンドユーザー様からも好評価をいただけたことです。また、And More 階段と同じ意匠となり、空間全体で統一感のあるコーディネートが実現。

時を経るごとに深みを増していくブラックチェリーの色合いや素材感は、10年後、20年後、30年後とさらに価値を増していく、より美しい邸宅へと移り変わっていくように感じます。



Select
vol.15

株式会社ウッドフレンズ モデルハウス
DESIGN PREMIUM / MOSAIC ブラックチェリー



今年は二人でのミラノ出張でした。3日間で歩いた歩数は約70,000歩。50km以上は優に歩いています。それでも夕食はがっつり食べるので帰ってきたら、しっかり体重が増えてました。。

編集後記



電車で見えた広告で「どんなに体がかたい人でもベターッと開脚できるようになるすごい方法」という本を知り、早速購入しました。毎日ストレッチしているとだいぶ柔らかくなってきて、動きがスムーズになってきました！ポケモンGOしながらのウォーキングと、ここ最近、何かと健康的な毎日を過ごしています。(西村)



スポーツ観戦が好きで、特にサッカーは毎年観に行きます。サッカー好きな人は一度行ってみたい場所、FCバルセロナの本拠地カンプ・ノウに昨年行ってきました。やっぱりスピードの速さと観客の多さ、迫力が違いますね。今年、私が観ると2連敗。次こそは勝利を！と懲りずに応援に行きます…。(大西)



暫くNHKの大河ドラマを見ていませんでしたが今度の「真田丸」は毎回必ず見えています。これからは、関ヶ原の戦い、九度山への蟄居、そしていよいよ大阪冬の陣・大阪夏の陣…とクライマックスが続いていきます。益々目が離せませんね。(相原)



夏の終わりに出会った1冊の料理本に感化され、日々の食事にローフードを取り入れ始めました。最近は季節柄いちじくや天日干した梨を使ったサラダがお気に入りです。先日この本の著者による料理を実際に戴く機会があったのですが、植物のパワー溢れる滋味深い料理の数々は見た目も美しく、心も身体も元気にさせてくれました。ローフードおすすめです。(田中)

ご意見・ご質問・ご要望等がございましたら
info2@woodtec.co.jpまで

発行日 2016年10月1日
編集長 西村公孝
デザイン 鈴木信輔(ポールド)
イラスト 鈴木志穂 [P16]
発行 朝日ウッドテック株式会社

【キュー】
cue 03

世界初のエレクトリックギター

世界三大モデルの1つ

テレキャスターは、世界初の量産タイプのソリッドボディー⁽¹⁾構造のエレクトリックギターとしてアメリカのフェンダー社から1940年台後半に発売されました。発売当初はブロードキャスターという名称でしたが、後に商標登録の問題⁽²⁾によってテレキャスターへと名称を変更しています。今では、このテレキャスターは、レスポール、ストラトキャスターと並んでエレクトリックギターの世界3大モデルの1つとして世界中のギタリストに愛されています。

ミスター テレキャスター

さてテレキャスターと聞いて思い浮かべるギタリストは誰でしょうか？ キース・リチャード⁽³⁾を思い浮かべた人は、なかなかのロック通だと言えます。ロイ・ブキャナン⁽⁴⁾を思い浮かべた人は、かなりのギター通です。ジェームズ・バートン⁽⁵⁾？ 彼の名前を思い浮かべた人はマニアを遥かに超えた領域にいらっしゃる方です。

ホワイトアッシュとスワンプアッシュ

テレキャスターはネックにメイプル、ボディについては発売当初から1959年頃まではアッシュ、1959年以降はアルダー材が使われていましたが、やはり今でもビンテージギターとして人気があるのは初期に生産されていたボディにアッシュが使われていたテレキャスターです。アルダーボディの場合、中低域の音が太く出るので、どちらかといえば歪ませるようなサウンドに向いています。それに比べてアッシュボディの場合、音の輪郭がクリアで歯切れの良い音の特徴です。

ギターに使われるているアッシュ材は大きく分けてホワイトアッシュとスワンプアッシュの2種類です。ホワイトアッシュは硬くて重い木です。低域が強く出るのが特徴なのでベースギターに向いています。スワンプアッシュは比較的軽く柔らかい木で音抜けがよく、特に高域特性に優れているのが特徴です。従ってテレキャスターにはスワンプアッシュが使われています。

(文・相原)

- (1) 空洞のないボディ構造をもつエレクトリックギター。
- (2) ドラムメーカーのグレッッチ社が既に商標登録をしていた。
- (3) ローリング・ストーンズを中心メンバー。
- (4) エリック・クラプトンやジェフ・ベック等が敬愛してやまないアメリカのギタリスト。
- (5) 「ローリング・ストーンズ誌の選ぶ歴史上最も偉大な100人まギタリスト」において第19位。エルビス・プレスリーのバンドリーダーとして活動。



楽器
と 木

Telecaster
テレキャスター



キース・リチャーズ
(Wikipediaより)



ジェームズ・バートン
(Wikipediaより)